

2022 年度

事業報告書

2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日

公益財団法人 日本補助犬協会

2022年度は、コロナ禍の中、社会活動が戻ってくるのに伴って、対面での啓発活動も徐々に再開することができた。コロナ禍で進んだオンラインについては、セミナー等で対面とオンラインを同時に行うハイブリッド式を積極的に活用し、様々な環境でリアルタイムに情報にアクセスできるように努めた。

補助犬育成関係でも、身体障害者補助犬認定審査会において対面とオンラインによるハイブリッド式を取り入れ、補助犬希望者及び認定審査員の負担軽減を図りつつ、審査会での円滑な認定を行うことができた。

また、2022年は、身体障害者補助犬法施行から20年、当協会設立20周年の節目の年であり、「身体障害者補助犬法20周年キャンペーン」として、多様性が尊重される社会の実現を目指し「補助犬フェアラム」を開催し、東京大学教育学研究科附属バリアフリー教育開発研究センターとは共同研究を開始した。

◆公益事業実施状況

補助犬育成・貸与・認定事業

1. 補助犬(及び候補犬)の育成・認定及び貸与

次のとおり、補助犬6頭の育成・認定を行い希望する身体障害者に貸与した。

1) 当協会が育成・認定した補助犬 5頭

盲導犬 2頭 埼玉・東京
介助犬 2頭 岩手・大阪
聴導犬 1頭 新潟

2) 他団体が育成し、当協会が認定した補助犬 1頭

介助犬 1頭 北海道

3) 身体障害者補助犬認定審査会開催状況

次の通り2回開催した。

令和4年12月11日 認定頭数 3頭(介助犬2頭、聴導犬1頭)

令和5年3月12日 認定頭数 1頭(介助犬1頭)

2. 補助犬ユーザー(使用者)に対するフォローアップ

補助犬ユーザーと補助犬の生活の質及び補助犬作業の質の向上を図るため、次のとおりフォローアップを行った。

1) フォローアップ

・全補助犬ユーザーからの定期報告書および補助犬健康診断書の提出(4月～5月)

・盲導犬ユーザーに対するフォローアップ

来所・訪問 10人 延べ 14日

電話・メール 14人 26回

・介助犬ユーザーに対するフォローアップ

来所・訪問 5人 延べ 7日

電話・メール 7人 13回

・聴導犬ユーザーに対するフォローアップ

来所・訪問 10人 延べ 24日

メール・FAX 20人 30回

2) 補助犬希望者の相談業務

・盲導犬希望者の相談 4人 延べ 10回

・介助犬希望者の相談 3人 延べ 8回

・聴導犬希望者の相談 4人 延べ 10回

3. 補助犬候補犬の導入並びに繁殖、関連事項

1) 補助犬候補犬、繁殖犬導入

海外の盲導犬協会より候補犬4頭を導入した。

2) 聴導犬候補犬確保のための外部からの導入

国内の支援者より3頭の候補犬を導入した。

4. パピーの育成

パピーファミリー(仔犬飼育ボランティア)に委託している将来補助犬になり得る仔犬の飼育は、「社会化」と「月齢に応じたきめ細かいしつけ方」についてパピーの発達段階毎のサポートを行った。

・委託状況

7頭

・サポート方法

電話、メール、しつけ教室の開催、訪問等

電話・メール相談 72回

しつけ教室の開催 22回

訪問 5回

・繁殖件数 1件

5. 引退犬の支援

19頭の引退犬に対して協会医療室にて健康管理をサポートすると同時に引退犬ボランティアに対して老犬に対する飼育相談等を行った。

- ・医療室の利用 8件
- ・来所・訪問 30回
- ・電話・メール相談 71回
- ・医療費支援
- ・介護用品の貸し出し

6. 職員の養成

職員に対し、日々のOJTとともに月1回の手話教室を開催した。また、同行援護従事者研修への参加、愛玩動物飼養管理士資格取得等、知識・技術の向上を図った。

補助犬啓発関係

1. 「第10回もっと知って補助犬キャンペーン」

- ・期間 令和5年2月1日～令和5年3月31日
- ・テーマ ～多様性が尊重される社会を目指して～

1) 補助犬フォーラムの開催(令和5年2月12日、日本丸訓練センター)

黒岩祐治神奈川県知事の基調講演、星加東京大学教授の講演の他、パネルディスカッションを行い、補助犬の現状や育成と普及の課題について話し合った。120名が参加した。

2) 東京大学との共催セミナーの開催

世界基準のインクルーシブ社会の視点を習得することを目的として、全4回のセミナーを開催した。延べ120名が参加した。

第1回(3月1日) インクルーシブ社会への視点習得ゲーム

第2回(3月8日) 補助犬ユーザーが直面するバリア

第3回(3月15日) バリアを取り除くための法律

第4回(3月22日) ディスカッション及び修了式

3) あなたの提案による取り組み

① 企業・団体等における取り組み

- ・大塚商会アンバサタードッグによる本社及び支社への心のバリアフリー推進活動の実施（期間中3回実施）
- ・イオンペット社の新入社員を対象とした「心のバリアフリー検定」の実施、54名が参加（令和5年2月1日）
- ・株式会社マミーマートによる第2回手作り募金箱コンテストの開催

② 学校教育における取り組み

下記学校において、補助犬及び「心のバリアフリー」普及を目的とした補助犬介在授業を実施した。

- ・豊島区立池袋第三小学校(令和5年2月4日)
- ・豊島区立高南小学校(令和5年3月14日)

③ 一般市民を対象とした取り組み

下記のイベント・公園に参加し、補助犬の啓発を行った。

- ・豊中市イベント(令和5年2月23日)
- ・豊島区ふくしまつり(令和5年2月26日)
- ・川崎市北区身体障害者福祉会館講演(令和5年3月29日)
- ・インターペット2023(令和5年3月31日)
- ・大塚商会特別社員「介助犬ケイ君」の本社への定期的訪問の実施

2. 啓発活動の実施

- | | |
|------------|-----|
| ・オンラインセミナー | 4回 |
| ・イベント | 18回 |
| ・見学会 | 10回 |
| ・補助犬介在授業 | 3回 |

3. パンフレット・会報の作成・配布

当協会の組織概要・事業実施状況等に関する情報を発信することにより知名度の向上、支援者の発掘等を図るためパンフレット等を作成・配布した。

・パンフレットの配布

当協会のサポーター制度・寄付金の使途等に関するパンフレットをイベント等で配布した。

・会報の作成・配布

当協会の活動状況等について報告することにより、賛助会員及び募金箱設置の継続率向上、ひいては運営費の安定供給を図るため、会報「につぼけん通信」第22号を8,000部作成し、賛助会員、募金箱設置店、協力企業・団体に送付した。

4. SNS の充実・活用

ホームページの他、Facebook では協会の活動を中心に掲載した。また、インスタグラムを活用し、補助犬の日常生活の一コマを中心に写真・動画を掲載し身近な存在として補助犬を理解してもらえよう情報発信の充実に努めた。また、Facebook で、クラウドファンディングの広告を行った。

5. マスメディア等での情報発信

補助犬の認知向上や当協会の活動内容を知っていただくため、積極的にマスメディアの取材に応じ情報発信を行った。

子供の情操教育活動

東日本大震災被災地の小・中学校を中心に、東北地方の介助犬ユーザー、ボランティアが下記場所を訪問し、子供の情操教育活動を行った。

- ・令和4年6月21日 紫波総合高等学校
- ・令和4年7月6日 花巻市立湯口中学校
- ・令和4年9月5日 盛岡市立山岸小学校
- ・令和4年9月29日 金ヶ崎町立第一小学校
- ・令和4年11月4日 金ヶ崎町立西小学校
- ・令和4年11月24日 花巻市立新堀小学校

運営上の課題解決に向けた取り組み

経営会議の開催

円滑な組織運営を推進するため経営会議を 10 回開催した。

その他

1. 横浜市との連携

「人と動物との共生推進よこはま協議会」委員として協議会に参画した。

2. 日本ヒルズコルゲート株式会社から社員派遣、および協会在所犬のドッグフードの提供を受けた。

3. クラウドファンディングの実施

クラウドファンディング「ほじょ犬応援プロジェクト 2022」を実施し、426 名の方から 9,315,000 円の寄付収入を得た。

◆ 収益事業実施状況

商品販売事業

1. 補助犬チャリティー商品の制作・販売
ボランティアの協力を得て補助犬チャリティー商品を制作し、オンラインで販売した。
2. 自動販売機設置
訓練センターに設置した自動販売機の売り上げに対する手数料収入及び募金型自動販売機からの収入を得た。

なお、令和4年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成していない。

【参考】

◇理事会開催状況

開催年月日	主な決議事項
2022年5月31日	2021年度事業報告及び収支予算書の承認について 外部評議員選定委員選任について
2022年6月17日	代表理事及び業務執行理事互選について 規程の改廃について
2023年3月20日	2023年度事業計画書及び収支予算書の承認について

◇評議員会開催状況

開催年月日	主な決議事項
2022年6月17日	2021年度収支決算書の承認について 定款変更について 規程の改廃について 理事及び監事の選任について

◇職員に関する事項

2023年3月31日現在職員在籍状況(理事含む)

部署	職種	常勤			非常勤			計		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計
管理部門	総務・経理	1	0	1	0	0	0	1	0	1
補助犬育成 部門	指導員	0	3	3	0	0	0	0	3	3
	訓練士	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	研修生	0	2	2	0	0	0	0	2	2
	獣医師・トリマー	0	0	0	1	1	2	1	1	2
企画推進部門	企画推進	1	0	1	0	0	0	1	0	1
普及啓発部門	広報・啓発	1	0	1	0	0	0	1	0	1
計		3	5	8	1	1	2	4	6	10

注) 業務委託、派遣社員含む

◇施設の状況

1)所在地 横浜市旭区矢指町 1954-1~2

2)敷地面積 (単位 m²)

訓練センター	955,64
認定試験センター	498,50
計	1454,14

3)建物 (単位 m²)

区分	構造	延床面積	主な施設
訓練センター	木造2階建て	497,70	事務室、ミーティングルーム、ケネルブリーディングルーム、グルーミングルーム、共同訓練用居室(4室)、食堂、厨房、浴室、多目的ルーム
認定試験センター	木造平屋建て	188,79	犬用医療室、グルーミングルーム、多目的ルーム